



【先週 11月17日～11月23日の外食の出来事】

■トリドール、営業利益23%増、4～9月期 丸亀製麺が好調

2019年4～9月期連結決算(国際会計基準)は、営業利益が前年同期比23%増の50億円だった。国内の丸亀製麺の既存店売上高が好調で、人件費などの費用増を吸収した。売上高は11%増の800億円だった。

■大戸屋、10月売上12%マイナス コロナによる再建急げ

株式会社大戸屋ホールディングスが、2019年10月の月次実績を発表した。全店売上高は、12.5%減と大幅に減少した。2019年2月からマイナスが続いている。既存店では、客数11.6%減、客単価0.2%減で、売上高11.8%減。

■ペッパーフードの19年12月期は25億円の赤字へ、44店舗閉鎖

12月期通期連結業績予想を下方修正し、当期純損益が25億300万円の赤字に陥る見通し。店舗数の過多による自社ブランド同士の競合や客離れにより業績が悪化していることに加え、44店舗の閉鎖に伴う減損損失を計上。

■すかいらーく、6%増益 1～9月営業、メニュー改善寄与

2019年1～9月期の連結決算(国際会計基準)は営業利益が199億円と前年同期比で6%増えた。人手不足による人件費の上昇が続くなか、付加価値の高いメニューの投入や新規出店による増収効果でコスト増を吸収した。

■ワタミの4～9月、最終赤字5億円 海外振るわず

2019年4～9月期連結決算は、最終損益が5億6300万円の赤字(前年同期は5億8100万円の赤字)。海外の外食事業が振るわなかった。国内の外食事業や農業事業も苦戦した。売上高は前年同期比3%減の453億円。

■サンマルクホールディングス、上半期(2019年4月～9月)の連結業績 増収減益

2020年3月期 第2四半期の連結業績は売上高358億4500万円(対前年同期比2.9%増)、経常利益31億1500万円(同4.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益16億2000万円(同10.2%増)であった。

■APカンパニー10月、既存店15%減 塚田農場の“生販直結”響かず

株式会社エー・ピーカンパニーの10月実績は既存店で客数前年比86.8%、客単価97.9%で、売上高85.3%と増税もあり非常に厳しくなった。塚田農場で生販直結をアピールしているが、顧客には刺さっていないようだ。

■10月の訪日外客数、5.5%減の249万7千人と2ヶ月ぶりに前年を下回る

10月は、前年同月比5.5%減の249万7千人と、昨年同月の264万1千人を約14万人下回り、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。訪日外客数が多い韓国市場の減速(前年同月比65.5%減)が前年同月を下回る要因に。

■幸楽苑、年末年始は休業 台風19号被害にも揺るがず

株式会社幸楽苑ホールディングスが、年末年始の休業を発表した。幸楽苑は、12月31日(火)14:00ラストオーダーで営業終了し、1月1日は終日休業とする。年末年始休業により、2日間で約2億円の売上減少が見込む。